

今ここで頑張っています

外資系企業に勤めてーグローバル化の中で生きる ノボザイムズ ジャパン 株式会社 松井 知子(新制40回)



レゴやロイヤルコペンハーゲンの名前で記憶されているのかもしれない北欧の小国、それがデンマークである。本年はワールドカップ予選のおかげで、その国名は日本のメディアを賑わした。面積も九州ほど、人口も500万人ほどの小さな国。そのデンマークに、産業用酵素のシェア世界一を占める企業としてノボザイムズ社の本社はある。日本にも幕張に研究所があり、筆者は応用生物化学研究室(宇佐美・桐村研)を修了以来、その研究所に勤務している。

日本の研究所といっても、日本向けの酵素の研究をしているわけではない。世界市場に向けて、デンマーク、アメリカ、中国、インド、イギリス等、世界各地のノボザイムズの研究所が連携し、それぞれの特徴を生かしながら各個のプロジェクトが進行しており、極めて多国籍な形態で仕事が進む。弊社は微生物の多様性を利用し、産業用酵素の開発を行っているが、同じように研究開発にも多様性を重んじている。とはいっても、デンマークの会社である以上、すべての基本はデンマークである。アメリカ人も中国人も日本人もデンマーク流に従わざるを得ない。企業のグローバル化の中で、一企業としての統一性を保つためにデンマーク主体で様々なITシステムが導入されている。デンマークというと教育・医療費無料の福祉先端国家のイメージがあるが、実はIT先進国でもある。

近年、筆者はバイオエタノール用の酵素開発に従事しているため、その応用研究の本拠地であるアメリカ・ノースカロライナの研究所とのやり取りが増え、メールや電話だけではなく、ウェブを介してプロジェクト会議などを行うことが多くなった。しかし、本社デンマークを含めた3国間では、時差のため夜中から深夜の時間帯になり、家族が寝た後、ヘッドセットをつけ会議スタートとなる。海を隔てた研究所間で円滑にプロジェクトを運営していく上で必要不可欠な情報の共有化、それに基づく議論などが、IT技術の進化のおかげで格段に早く運ぶ

ようになったが、その分、昔に比べ非常に忙しくなった感は否めない。(何しろ、眠い。)

また、共通の電子実験ノートも全研究所に導入された。日本にいながら、海外の同僚の実験ノートを盗み見ることが簡単にできる。逆もまたしかりで、私の失敗データも丸見えである。これには賛否両論であるが、グローバル化の流れとしてやむをえないのかと半ばあきらめている。その他にもデータベース類の共有化などの様々なシステムが導入され「何でもかんでもシステムに取り入れよう」とするデンマーク式には、思考を柔らかくしておかないといけない。ただ、トップダウン式決定事項でも、我々にとってもより良いものにしていくためのボトムアップ式改善は可能である。アジア人は自分の意見を抑えがち傾向があるが、意見を言わないということは、意見が「ない」ことになってしまう。異存があれば社長にでもダイレクトに意見を言うという欧米企業の社風は、心地よいものを感じられる。

今では、文化・生活・考え方の違いにはさすがに慣れ、多少のことでは驚かなくなった。

ワークライフバランスのとれた生活、3-4週間の長い夏休みや、父親の育児休暇・家事参加が当然の風潮、これらの「デンマークでは当たり前のこと」が日本人としては羨ましくもある。それでも、子供の誕生日が理由で会議の日程が簡単に変更されるとさすがに驚く。

様々な文化の違いを認め合った上で、グローバル化に流されるのではなく、それぞれの長所を取り入れていく。一方では、日本人特有の器用さ・柔軟な応用力・チームワークを生かし、日本の発酵文化に基づいたバイオテクノロジーに根をはった独自性のある研究を進める。このような考え方で成功例を作り上げていくことによって、グローバル化の中で他国に負けない「日本の研究所の存在価値」が見出されると信じている。そして、それが筆者の仕事への原動力となっている。